

エコチル調査
 1周年記念シンポジウム
 ～子どもの健やかな成長を願って～

2012/01/22



発達のおはなし

小枝達也

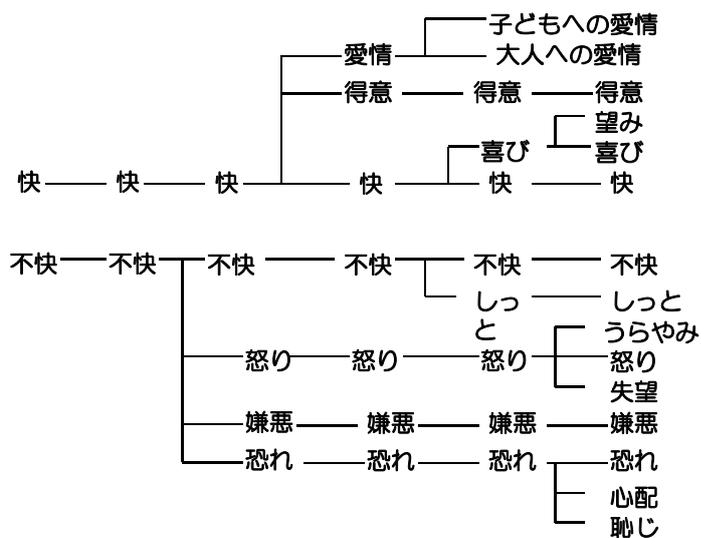
鳥取大学地域学部
 鳥取大学附属小学校



情緒の発達

基本は“快と不快”

新生児 3か月 6か月 1歳 1歳半 2歳 5歳



情緒の発達 乳児期



1. 快と不快が支配
2. 不快を取り除き、快を与えてくれる人との基本的信頼感の成立

いわゆる“愛着”の形成

情緒の発達 幼児前期



1. 摂食、移動、排泄の自立
2. 母からの分離不安
 - ”自分であるはずの母が、自分で食べなさい、という”
 - “あれっ？と子どもは思う”
3. 一方で、母以外との愛着の形成（父、祖父母など）
4. 親の保護を得るために自己の欲求は抑圧されている

情緒の発達 幼児後期



1. 自我の芽生えと自己主張
2. 母から離れてメイツと遊べるようになる

いわゆる“親の恒常性と内化”

親が心の中に住むようになると、ひとりで歩き始める



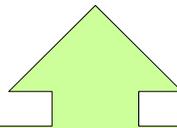
“親の参照” → “自分の参照”

虐待の恐ろしさは、親の恒常性の欠如と内化の阻害・・・軸がブレる

社会性の発達①



社会性の発達
(幼児期後半)



- ・ 自己表現
- ・ 共感
- ・ 調整

社会性の発達①



共感・心の理論

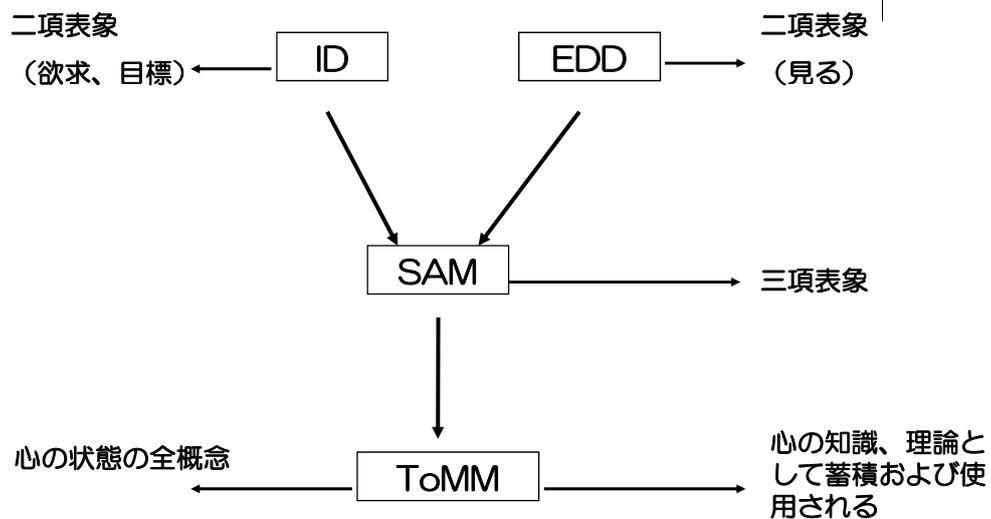
AはBという考えを持つ

AはBという考えを持つとCが思う

社会性の発達①



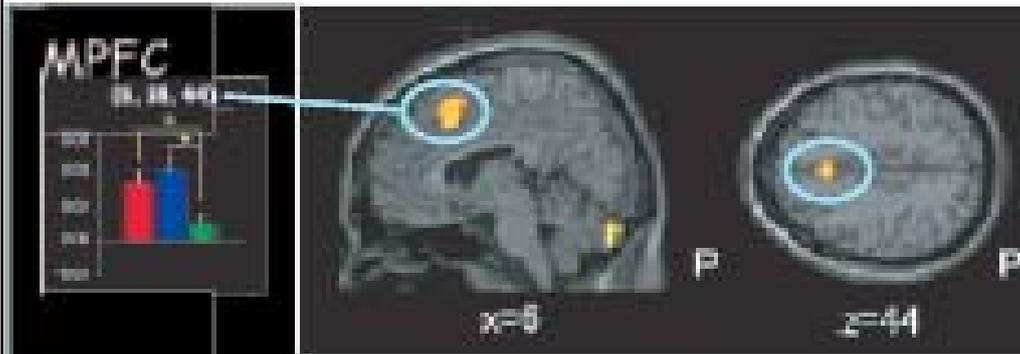
心を読むシステム



社会性の発達①



「心の理論」の神経基盤



社会性の発達②



報酬系

- 生理的報酬系 • 側坐核
快 vs 不快
- 社会的報酬系 • 線条体
利他的行動

社会性とは



①要素；自己表現，共感，調整

②報酬系；

幼い時には生理的報酬系・・・生存のため

次第に社会的報酬系・・・愛着の確立

愛着の成立



躰けられる・・・規範意識

褒められる・・・内的動機づけ



社会的報酬の原型

社会性とは



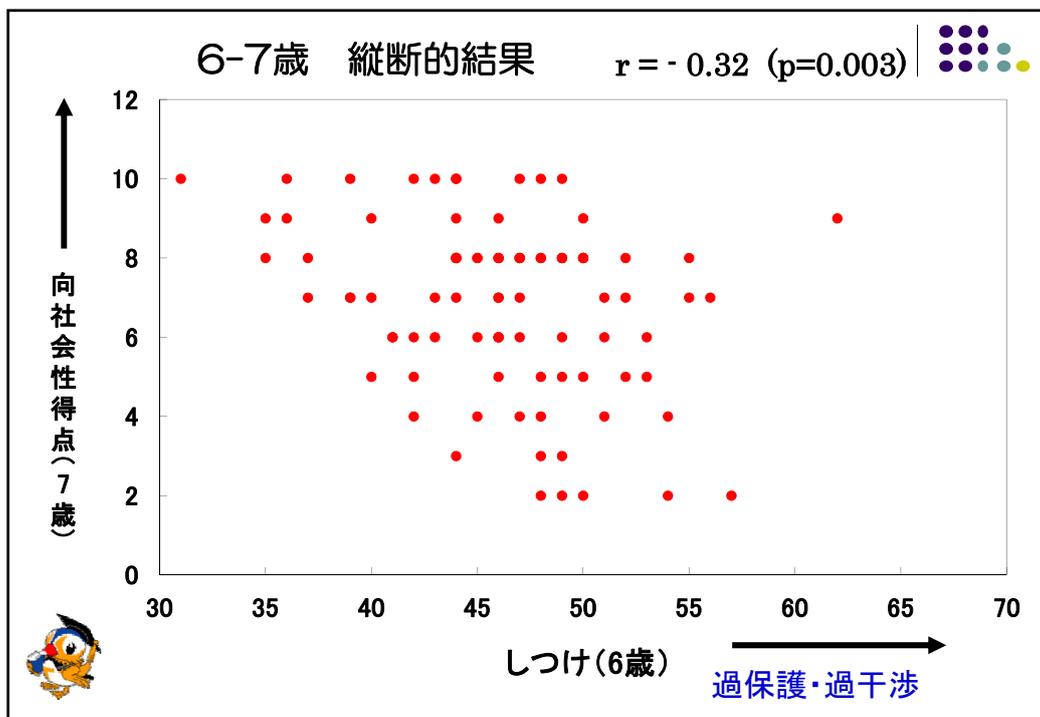
①要素；自己表現, 共感, 調整

②報酬系；

幼い時には生理的報酬系・・・生存のため

次第に社会的報酬系・・・愛着の確立

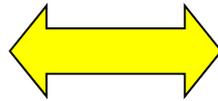
「ほめて育てよ！」



社会性の発達 (幼児期後半)



- 自己表現
- 共感
- 調整



- 過保護
- 過干渉

過ぎた口出し、手出し
教示の少なさ
待つ姿勢や受け止めの少なさ



思春期の発達課題



- 母親離れ
- 自分探し・自分作り



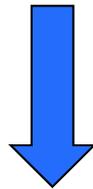
第二の個体化

“10~18歳”

いわゆる
“つ離れ”



“親からのほめ”



“親からの承認”

小学生の「生活の質」と学業



- 子ども自身は自分たちの「生活の質」をどのように評価しているのか？

・身体
・気持ち
・自尊感情

・家族
・友だち
・学校

6つの側面から「生活の質」を評価

- 学業不振のある子／ない子（親の感触による）の間の得点差を調べた。

学業不振と生活の質（8歳）



- ・保護者評価：
学業不振があると
自尊感情
学校生活
QOL全体
の3つが低い・・・と親は思っている
- ・本人評価：
学業不振があると身体的健康が低い

学業不振と生活の質（9歳）



- ・保護者評定：
学業不振があると
自尊感情
家族
学校生活
QOL全体
の4つが低い・・・と親は思っている
- ・本人評価：
学業不振があるとすべて低い

小学生の「生活の質」と学業



- 「学業不振」は本人たちにとって「身体面」の生活の質低下として現れる（8歳）。
- その後、本人たちの全般的な生活の質低下につながる（9歳）。

【子どもの発達は軌跡として見るのが大切】

